



Title	由本陽子教授の略歴および主要研究業績
Author(s)	
Citation	言語文化研究. 2023, 49, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90942
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

由本陽子教授の略歴および主要研究業績

略歴

1980年3月	神戸女学院大学文学部英文学科卒業（文学士）
1981年4月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程入学（英文学専攻）
1983年3月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了（修士（文学））
1983年4月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程入学
1986年4月	日本学術振興会特別研究員（1987年5月まで）
1987年3月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学
1987年6月	大阪大学言語文化部助手
1988年3月	大阪大学言語文化部講師
1991年4月	大阪大学言語文化部助教授
1997年8月	文部省在外研究員 ロンドン大学 SOAS(1998年4月まで)
2004年2月	大阪大学文学研究科 博士（文学）
2007年4月	大阪大学言語文化研究科教授
2015年9月	大阪大学副理事 グローバル連携室員（2019年8月まで）
2019年8月	大阪大学総長補佐 男女協働推進オフィス員（2021年8月まで）
2023年3月	定年により退職

主要研究業績

【著書】

- 『語形成と概念構造』（影山太郎氏との共著）「動詞から動詞を作る」、研究社出版、1997年9月.
- 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』（単著）、ひつじ書房、2005年7月。（第24回新村出賞受賞）
- 『レキシコンに潜む文法とダイナミズム』（単著）、開拓社、2011年10月.
- 『複雑述語研究の現在』（岸本秀樹氏との共編著）、ひつじ書房、2014年1月.
- 『語彙意味論の新たな可能性を探って』（小野尚之氏との共編著）、開拓社、2015年11月.
- 『名詞をめぐる諸問題：語形成・意味・構文』（岸本秀樹氏との共編著）、開拓社、2020年10月.

他7冊

【論文】

1. “The Role of Aspectual Features in Morphology,” *English Linguistics* 8 (日本英語学会), 1991年12月, pp.104–123.
2. “Verb Prefixation on the Level of Semantic Structure,” In Kageyama, Taro (ed.), *Verb Semantics and Syntactic Structure*, Kuroso Publishers, 1997. 1, pp. 177–204.
3. “A Modular Approach to the Semantic Interpretation of Syntactic V-V Compounds,” *Journal of Japanese Linguistics* 17 Special Issue: *The Interface between Lexical Semantics and Syntax/Morphology*, 2001. 12, pp.125–150.
4. “Variation in N-V Compound Verbs in Japanese,” *Lingua* 120, 2010. 5, pp. 2388–2404.
5. 「「名詞 + 動詞」複合語の統語範疇と意味カテゴリー」, 益岡隆志 (編)『日本語研究とその可能性』, 開拓社, 2015年6月, pp. 80–105.
6. “Conversion and Deverbal Compound Nouns,” In Kageyama, Taro and Kishimoto, Hideki (eds.), *Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation*, Mouton De Gruyter, 2016. 1, pp. 311–345.
7. “Semantic Interpretation of Japanese Verbal Compounds Revisited,” In Hae-Sung Jeon (ed.), *Japanese/Korean Linguistics* vol. 28, CLSI Publications, Stamford, 2021, pp.17–37. 他71編

【研究発表】

1. 「Un-, Non- 派生語の LF 表記に関する一考察」, 日本英語学会第3回大会, 1985年11月 (於 大阪大学).
2. “Modularity of Word Formation: Differences between Two Types of Japanese Compound Verbs,” International Symposium on ‘Language, Mind and Brain’, 2006. 10 (Akita University).
3. 「複雑述語の形成に伴う事象構造の合成と項の実現」, 『2007中日理論言語学研究国際フォーラム』, 2007年9月 (於 北京大学).
4. 「「名詞 + 動詞」型複合語の統語範疇と意味カテゴリー」, 『シンポジウム：日本語研究とその可能性—音韻・レキシコン／語彙・文法を中心に』, 日本言語学会第147回大会, 2013年11月 (於 神戸市外国語大学).
5. 「複合語形成から明らかになる部分名詞と形質名詞の性質について」『シンポジウム：語彙・構文の文法現象における名詞の役割』(企画・進行：由本陽子)、日本英文学会関西支部第12回大会、2017年12月 (於 京都女子大学). 他32件

【その他】

受賞歴 4 件, 共著翻訳 2 冊, 事典分担執筆 3 件, 公開講演 8 件, 書評等 7 点, 外部資金助成実績 11 件.